







# 立派な家族計画研究センター 2014年度 事業実績報告

1面に続き、本会家族計画研究センターの2014年度事業実績を報告する。  
(本会家族計画研究センター所長 北村 邦夫)

**低用量経口避妊薬相談を  
一手に引き受けて**

わが国で発売されてい  
OCには14種類のプラ  
ドがある。本会が企業  
者での発症率を比べて格段  
に低く抑えている。妊娠・産褥期における血栓  
症発症率の方がOC服用

木語二語の生産性が高くなると、見ると、「飲み忘れた」果とは言えないだろうか。

妊手術などを上手に使い分けることが肝要である。

るOC関連相談は、このうち8種類のブランドを対象としている。しかし、実際にはこれらの電話相談カードが医療機関を通じて服用者に手渡されていていることから、わが国のOC服用者からの相談を一手に本センターが引き受けていると言つても過言ではない。ここで、「OCサポートコール」を例に、OC相談の傾向を探つてみた。

2013年12月、突然の「ビル(OC)服用に伴う血栓症死亡」報道。これを契機に、OC服用者だけでなく処方する医療従事者にも不安が広がり、吉田院長は「今まで、OC服用者だけではなく処方する医療従事者にも不安が広がる」と述べた。吉田院長によれば、この問題は、OC服用者だけでなく、OC相談の相談件数と相談者の平均年齢が急激に増加したことに起因する。そこで、吉田院長は「OC相談の相談件数と相談者の平均年齢が急激に増加した」と述べた。

図2 OCサポートコール～年度別相談件数と相談者の平均年齢

年度	相談件数	相談者の平均年齢
04年度	2,051	29.0
05年度	3,980	29.5
06年度	5,052	29.7
07年度	6,058	30.0
08年度	6,404	29.7
09年度	7,893	30.4
10年度	7,629	30.8
11年度	6,801	31.1
12年度	5,309	31.5
13年度	4,408	32.0
14年度	3,200	32.5

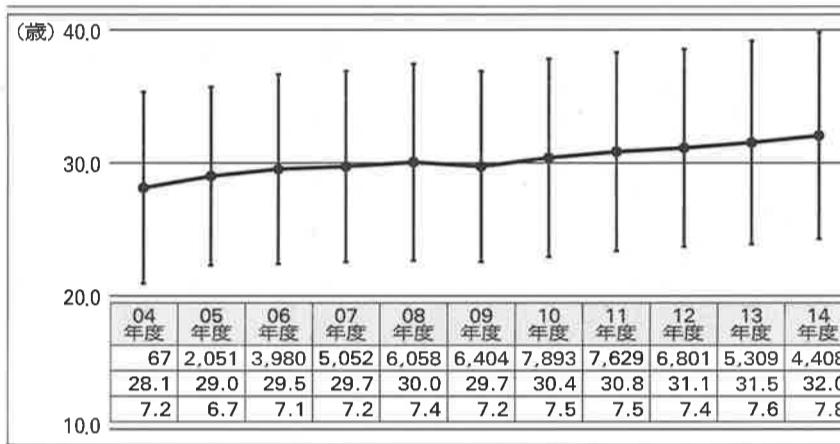


図2 OCサポートコール～年度別相談件数と相談者の平均年齢±標準偏差～（2004～2014年度）

表2 OCサポートコール～相談主訴の推移～（2004～2014年度）

	飲み忘れた場合の対処	服用方法	副作用	避妊効果	薬物相互作用	周期調節	ピル一般	服用順番間違い	副作用以外の不安	その他
04年度	4.3	13.0	23.2	4.3	18.8	0.0	4.3	0.0	0.0	31.9
05年度	12.0	18.1	13.8	7.8	12.8	4.5	3.3	1.5	12.0	14.3
06年度	13.6	19.8	17.6	7.1	10.5	6.5	4.4	2.0	4.2	14.3
07年度	15.0	18.8	18.1	9.6	10.2	8.0	7.3	2.4	3.0	7.6
08年度	15.9	19.7	16.9	10.5	11.4	8.7	4.7	2.6	3.1	6.4
09年度	17.8	19.6	14.3	9.9	10.8	9.0	7.6	2.7	2.7	5.5
10年度	17.8	18.6	16.0	9.4	10.7	9.6	6.6	3.5	1.7	6.2
11年度	20.6	19.3	14.7	8.7	10.1	9.7	5.0	3.5	2.1	6.3
12年度	23.4	18.7	12.0	7.9	9.4	9.9	6.2	2.9	2.4	7.3
13年度	23.9	19.0	12.9	7.8	8.0	10.4	4.9	3.1	2.9	7.1
14年度	23.3	20.4	10.8	9.6	8.7	8.6	5.1	3.4	2.7	7.3

不妊を心配したことのある夫婦の割合は、02年の  
27・0%から、10年には  
27・6%となっており、  
検査や治療の経験がある  
(治療中を含む) 割合も  
12・1%から16・5%と  
増え、不妊の底辺はさら  
に広がる兆しがある。  
1997年2月にスタ  
ートした「東京都不妊・  
不育ホットライン」は既  
に19年間が過ぎ、現代の  
不妊事情を反映するよう  
な結果が垣間見える。第  
1に、相談者の年齢が  
年々高齢化していること

## 「不妊・不育」と女性の健 東京都の委託電話相談

わが国の少子化の最大要因は晩婚化・晩産化の進行にある。結果として、以前は不妊とは10組に1組ほどとされていたものが、今では6組に1組ほどに増加している。国立社会保障・人口問題研究所が実施した「第14回出生動向基本調査」(2010)によれば、

外受精／顕微授精／慣性流産／不育相談」の増加、「病院情報」を求める声や「治療への迷い」の減少が目につく。また、最近では不妊の原因が女性だけではなく男性、両性の問題でもあることが周知され始めたのか、男性からの相談も日

表3 東京都 不妊・不育ホットラインへ主な相談内容の年度別推移(2004~2014年度) (%)

	病院 情報	体外受精/ 顎微授精	習慣流産/ 不育症	治療へ の迷い	男性
全体	12.4	9.4	3.0	23.3	7.2
96年度	21.7	3.6	0.0	39.5	3.9
97年度	16.6	5.6	3.3	33.6	3.7
98年度	10.9	5.6	2.6	24.7	4.3
99年度	15.5	6.4	3.7	21.3	4.7
00年度	15.1	8.1	3.1	18.8	6.0
01年度	15.6	8.9	2.2	28.4	5.1
02年度	14.3	9.1	1.8	28.6	6.0
03年度	10.5	6.3	1.3	24.7	6.5
04年度	9.4	8.1	1.4	20.6	6.7
05年度	10.3	7.7	1.1	25.9	4.1
06年度	10.8	14.4	3.2	20.7	7.9
07年度	8.4	18.7	1.3	21.3	9.6
08年度	10.8	11.3	1.0	21.4	13.5
09年度	8.8	16.4	0.0	18.9	15.9
10年度	10.0	9.3	1.5	16.0	16.5
11年度	10.7	10.0	0.9	14.2	12.1
12年度	7.7	12.5	5.8	17.2	10.1
13年度	6.5	18.8	13.0	15.5	12.3
14年度	9.8	15.2	12.9	15.2	11.0

性感染症の検査を勧める常套句がこれだ。「親族を除いて、誰よりも付き合いが長い異性といえばこの僕だよね!」。この言葉を否定できる人は誰一人としていない。「誰よりも信頼できる人だってこと」と返してくる。「付き合っている相手が感染者だと疑うのも嫌だらうけれども、自分を大切にするのことを第一に考えてほしい」。さながら父親のようにアドバイスする機会が増えている。

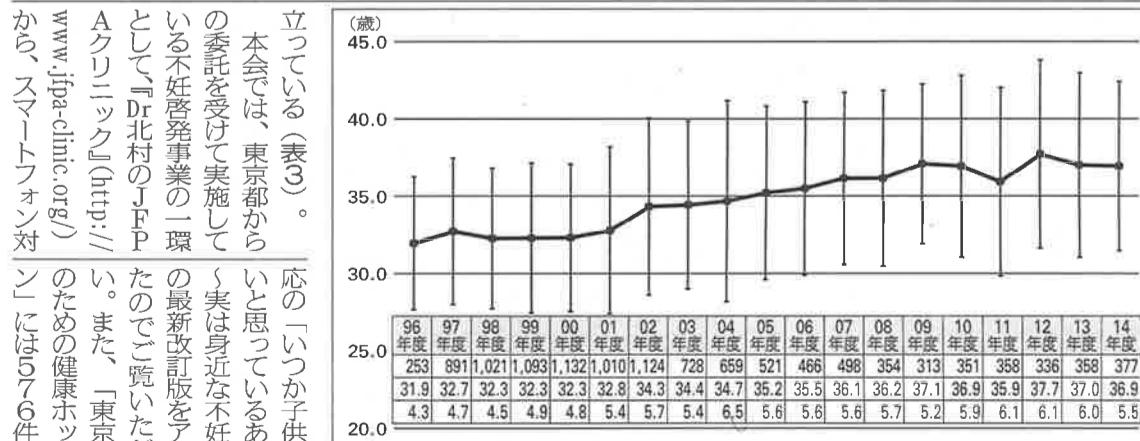


図3 東京都 不妊・不育ホットライン～年度別相談件数と相談者の平均年齢士標準偏差～（2004～2014年度）







